

2020 年 6 月 3 日

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部長 宮部周作

2020 年度 競技会運営方針について（修正版）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

国内におけるライフセービングスポーツの普及および競技力のレベルアップと、競技会の魅力を高めつつ、競技会運営の健全化を通じて経済的に持続可能なものとするべく、様々な改革を進めております。

今年 2 月 17 日に発表した「2020 年度 競技会運営方針について」につきまして、中学生のスイム系種目における競技会参加条件についてアップデートがありますので、下記の通りお知らせいたします。

敬具

● 中学生の全日本および種目別への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や様々リスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者（以下、ユース責任者）、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

さらには体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本および種目別への参加を認めるものとする。

【参加条件】

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。



- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きいサーフスキーを使用する種目やコンタクトの多いビーチフラッグスを除く。サーフレース等のスイム関連種目については、ジュニア・ユース・マスターズ選手権大会のサーフレース高校生の部において8位入賞したもののみ出場を可能とする。(競技会エントリー時点では8位入賞している必要はないが、8位入賞できなかったために競技会参加ができなくてもエントリー費の返金はされない。)
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 全日本ユース選手権の高校生の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。また、いかなる理由においてもエントリー費の返却はしない。

【参加方法】

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
- その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。(詳細は各競技会要項を確認)

以上

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
info@jla.or.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会